



こだいら21世紀構想

小平市第三次長期総合計画基本構想

こだいらの 将来都市像

将来都市像 (第2章 第1節)

躍動をかたちに 進化するまち こだいら

緑と住みやすさを大切に さらに自立し活力あるまちの実現をめざします

市では、昭和45年から二次にわたり長期総合計画を策定し、まちの将来像を定め、総合的・計画的なまちづくりを進めてきました。現在の長期総合計画が平成17年度(2005年度)に終了するために、平成18年度(2006年度)からの市のあるべき姿、進むべき方向を定める第三次長期総合計画の策定を進めています。ここで新しい「まちの将来像」を示し、まちづくりを計画的に進めるための「こだいら21世紀構想 - 小平市第三次長期総合計画基本構想 -」が、市議会9月定例会で議決されましたのでお知らせします。



構想の目標年次 平成32年度(2020年度)
将来の想定人口 19万2,000人
(第2章 第2節・第3節)

基本的な理念 (第1章)

私たちは、住み、働き、学び、訪れる、この「こだいら」がとても好きです。この「こだいら」が、これからも、住む価値を持ち、働く価値を持ち、学ぶ価値を持ち、訪れる価値を持ち続けるまちであるためには、「こだいら」がいい表情(かお)を持ち、いい郷(さと)であり続け、そしていい明日(あした)を予感させるまちであり続けることが必要です。「こだいら」に住み、働き、学び、そして訪れる人々も含め、多くの人々が、共通のふるさととして愛着を持ってこの地にかかわり続けたいまち、いつまでも平和であるまち、そのようなまち「こだいら」を創り上げるために、私たちは、次の3つを、これから新世紀を歩むための基本構想の基本的な理念とします。

「いい表情(かお)を持つ」

「いい表情(かお)を持つ」とは、だれもが心を通わせあい、みんながあいさつをかわしながら、自信に満ちた笑顔があふれることです。そして、訪れる人々が親しみを感じ、だれもが互いに支えあい、かかわりあいながら、これからも「こだいら」を、もっと知りたくなるような「いい表情(かお)」を持ち続けることです。



「いい郷(さと)であり続ける」

「いい郷(さと)であり続ける」とは、こだいらの地が、住み、働き、学び、そして訪れる人々にも、緑と自然につつまれ、安心して住むことができ、そしてこれからも安全に暮らせるまちであることです。そして、いつまでも私たちの「心のよりどころ」として、またいつの時代にも多摩のふるさととして安らぐことができ続けることです。



「いい明日(あした)を予感させる」

「いい明日(あした)を予感させる」とは、住み、働き、学び、そして訪れる人々も含めて、だれもが「こだいら」にすばらしい未来を見ることができ、そして活気にあふれ、高い芸術や文化のかがりが満ち、またいつまでも健康に暮らせる、わくわくするようすばらしい未来をつくり続けることです。



まちづくりの方向 (将来の土地利用)(第2章 第4節)

各駅を中心とした生活圏域の形成

私たちは、今まで長い年月をかけて、生活圏の中心である市内7つの駅及び近隣の2つの駅の周辺を中心に、商業・業務機能の強化、文化機能の整備、公共交通機能の整備を進めてきました。今後も、これらを継続して利便性を向上させ、だれもが快適に過ごすことができるように、今まで以上にまちの魅力を増すことをめざします。



良好な住宅環境の維持

良好な住宅環境を維持するためには、ゆとりある敷地として適度な密度を確保する必要があります。用途地域や建物の高さの混在をできるだけ避けることなどによって、快適な居住環境の確保をめざします。



緑の保全と創造

私たちに欠かすことのできない大切な緑については、市民・行政がそれぞれの立場で可能な限り維持していくとともに、新たに緑を創造していくことに努めます。また、環境の維持、防災、景観の維持などの視点から、玉川上水、野火止用水をはじめ、歴史ある街道沿いの緑やまとまりのある農地などのネットワークづくりを進めます。



幹線道路沿いの土地利用

幹線道路沿いの土地利用については、主要幹線道路や幹線道路の交通特性を基本としながら、背後に隣接する住宅地の環境保護にも配慮し、沿道サービス型の土地利用、または商業・業務施設の立地を誘導します。

